

日本臨床徒手医学協会イントロダクション・コース

「多裂筋に及ぼす分子構造と形態学的エビデンスから診る非特異的腰痛症の最新の体幹筋トレーニング」

：急性期・亜急性期・慢性期の **MATCHING MANAGEMENT**」

（講師：荒木秀明）

日時：

6月28日（日） 9時00分～13時00分

開催場所：中頭病院

〒904-2195 沖縄県沖縄市字登川 610 番地

<https://www.nakagami.or.jp/>

アクセス

沖縄北インターチェンジから車で約3分

参加費：5,000 円

対象：理学療法士・作業療法士など

定員：40名程度

申込方法

HOME PAGE（WWW.IMMSJ-SEMINAR.INFO/）からお願いします。

内容、スケジュール

講師：荒木秀明(日本臨床徒手医学協会 代表)

近年、椎間板障害後の脊柱起立筋の筋組成の状態を急性、亜急性、慢性期において分子構造と形態から詳細に検討され、脊柱起立筋の変化の特徴は時間依存性の違いが特定されてきました。これは、リハビリテーションのアプローチの理論的根拠に大きな影響を及ぼしました。今回のセミナーでは、講義では背筋群の構造と機能の順応を調査した研究をレビューして、腰痛の病期に matching させたリハビリテーションの方法を体験していただく、ハンズオンセミナーとしました。

■ 講義内容

- 急性期腰痛

- ✓ ヒトを対象とした実験的疼痛誘発下で、多彩な課題時の脊柱起立筋変化を超音波、EMG、MRIの結果レビュー
- ✓ 動物研究での筋肉構造に対する組織損傷の因果的影響の調査報告レビュー(3か月以内)
- ✓ 急性期腰痛に対するリハビリテーションの留意点
- 亜急性期腰痛：
 - ✓ 腰痛軽減症例への実験的疼痛誘発下で、多彩な課題時の脊柱起立筋変化を超音波、EMG、MRIの結果レビュー
 - ✓ 動物研究での筋肉構造に対する組織損傷の因果的影響の調査報告レビュー(3か月から6か月)
 - ✓ 亜急性期腰痛に対するリハビリテーションの留意点
- 慢性期腰痛：
 - ✓ 慢性腰痛症例の萎縮に関する横断面積、除脂肪筋指数、筋線維タイプ分類の結果レビュー
 - ✓ 慢性腰痛の背筋機能に対するEMG、MRIの結果レビュー
 - ✓ 慢性期腰痛に対するリハビリテーションの留意点

■ 実技

- 急性期腰痛
 - ✓ 「疼痛による急性抑制相」に対する manual therapy の実際
- 亜急性期腰痛
 - ✓ 「炎症性サイトカイン相」に対する運動療法の紹介
- 慢性期腰痛
 - ✓ 「廃用相」に対する運動療法の紹介